

# 令和3年度 第3回伊勢崎市多文化共生キーパーソン会議

## 会議録

開催日時 令和3年12月16日(木) 午後6時30分～午後7時30分

開催場所 伊勢崎市役所東館5階第1会議室

参加者

- ・キーパーソン 【6名】：相沢 正雄さん(ペルー)、朝倉 平さん(ベトナム)、  
田村 真里留さん(フィリピン)、本堂 晴生さん(日本)、  
山本 雄次さん(ベトナム)、若林ヤスイスエリさん(ブラジル)
- ・事務局(国際課) 【5名】：国際課長、国際化係長、国際交流係長、事務局職員2名

---

### 1. 開会・あいさつ

### 2. 第1回、第2回のキーパーソン会議であげられた意見のまとめについて

### 3. 意見交換 「来年度の活動や今後の会議のあり方について」

・新型コロナが落ち着いたら外国人住民みんなが来るようなイベントを開いてほしいが、開催にあたって周知を工夫しないと人は集まってこない。

・ベトナム人市民が増えてきているため、外国人総合相談窓口にはベトナム人相談員がいるとよい。

・前回の第2回キーパーソン会議の中にあつた「これから活躍したいこと」にあるようにごみの分け方・出し方のマナーや交通ルールなどを学べるイベントをしていきたい。

・これまでの会議で出た意見をもとに、市からキーパーソンにしてもらいたいことがあれば積極的に協力していきたい。

・ベトナム語の通訳者について、同じ言語を話せる人がいると相談がしやすい。市内にはベトナム語の通訳者が多くいるので、相談窓口に通訳者を順番でもよいから配置するべき。

・以前、他市で開催されたベトナム語講座の講師として参加したことがあつたが、日本人の参加者にベトナムの文化やベトナム語のことを知ってもらってとても嬉しかった。このような異なる文化の人同士が実際に触れあう文化交流によって同じ市民・県民であるとお互い認識できる。

・ごみの分け方・捨て方について、ごみの捨て方は地域によって違うという根本的な知識を

教えてあげることが必要である。

・日本人住民、外国人住民といった国籍関係なくみんながコミュニケーションを取れる場を設けてもらえれば、地域のために動きたいというキーパーソンが他にもいるので、その方々に声がけをしていきたい。

・昔から日本に住んでいて、日本語も話せる外国人住民は日本のある程度の生活ルールを知っているはずなのに、自国のルールを大事にして、日本の生活ルールに順応しないことがある。

・市から通知が届くと市役所に来て外国人相談員が手続きをサポートするが、その手続きの仕方を学んでもらったらまわりの外国人にも伝えてほしい。

・市から情報を受け取った外国人住民は、きちんと情報を理解して、自分で考えて行動するなど自立してほしいと思っている

・日本人と外国人が接するときは言葉が通じるか、通じないかが重要である。言葉が通じないと差別されてしまっていると感じてしまう外国人もいる。日本人とコミュニケーションが少しでも取れれば日本の生活習慣を学ぶのにとっても勉強になる。

・町内の役員に外国人住民が選ばれた場合、町内の回覧板やお知らせを読めないことのないように翻訳をしてあげるなど周りがサポートすることが大事だと思う。

・地区によって違う町内のルールをそこに住む外国人にどのように伝えたらよいかというのは大きな課題である。

・キーパーソンとなる方が各地域にいるため、キーパーソンを増やして、その方々を通じて町内のルールや会議で決めたことを住み始めた外国人に伝えられたらよいと思う。

・各区長との連絡を密にして、地域に住む外国人住民についての困りごとを聞き、必要があれば通訳を派遣するなどすれば生活トラブルは少なくなると思う。

・区長会等で各区長から外国人住民についての意見を聞くといいのではないかな。

・区費を払わない外国人住民が各地区にいると思うので、しっかり地域のルールを教えてあげることが必要である。

・羽黒町内には多くの外国人住民がいるので、どのようにして区費を集めているのか知りたい。

・キーパーソンとなれる人が他にもいるため、各地域にキーパーソンを置いて増やすといいと思う。それは、外国人に限らず日本人もキーパーソンになれる。

・また、キーパーソンと聞いてどのような人たちがかわからない人が多いと思うので、東日本大震災の時にアメリカ軍が命名した「トモダチ作戦」のような名前でも、キーパーソンと同じ立ち位置で地域の外国人住民のトラブルなどを周りに率先して伝えていく人達を外

国人 500 人、日本人 500 人を募集するのはどうだろうか。そのような仕組みづくりを市で行うことが必要であると思う。

・外国人住民と日本人住民の間でどのようなトラブルがあるのかを把握するためのアンケート調査をするのはどうだろうか。トラブルだけではなく、外国人もしくは日本人と一緒に地域で生活してみて良かったこともあわせて調査するとよい。どのようなトラブルが多いのか、解決できるものなのか、文化の違いから発生するものなのかといった調査結果の分析をした後、それをもとにお互い知っておかなければならない情報を発信すること等が大事である。

・区長会や校長会など「長」がつく会の集まりに外国人キーパーソンが出向き、外国人住民や日本人住民に対して思っていることなどの情報を共有することも大事だと思う。

・今後の会議のあり方については、これまでの会議でキーパーソンから意見が出てきているので、その意見をもとに市が具体的に実現したいことをキーパーソンに提案をしてもらいたい。国際課だけではなく他の課からキーパーソンにしてもらいたい事でもよい。

・キーパーソン会議で出た意見を市長にも伝えてもらい、市長からの意見も次回のキーパーソン会議の時にでもフィードバックしてもらえたらと思う。

・実行できること、できないことをはっきりわかるようにしてもらいたい。

・キーパーソンに任命されている以上、会議で議論するだけではなく、外国人住民のために実行をしていかないと意味がないと思うので、市からキーパーソンにしてもらいたいことを積極的にお願ひしてもらいたい。

・実行できることを書き出し、実行までをスケジュール化するとよい。国際課だけで実行できない時はキーパーソンに頼って協力してもらおうことも必要である。

・市内の外国人住民の約 4 割が永住者で、これからも市内に住み続ける外国人住民の多さでは県内で一番であり、さらに増え続けていくと考えられるので、外国人住民との共生のまちづくりをしていければ群馬県で良いモデルになると思う。外国人住民が住みやすい街は日本人住民にとっても住みやすい街でもあるため、外国人住民が住みやすくなるために実行できることをはっきりしてもらいたい。

・国別で協会があり、その方々は同胞のために行動してくれると思うので、協力してもらいたいことがあればキーパーソンを通じて声がけができるので言ってくれればと思う。

#### <事務局>

・皆さまからの意見を整理して、実行できることの仕分けをさせてもらい、その実行できることがある程度固まってきたら、皆さまから意見をもらいながら具体的な進め方や協力してもらいたいことを決めて実行していきたいと考えている。

4. 事務連絡

5. 閉 会